



ARUKU

2026 / 10



VOL. 12

歩来の日常 Arukunonitijyou

研修の様子

歩来では、ご利用者様に安心して看護を受けていただけるよう、定期的に研修を実施しています。

研修では、外部講師をお招きし、専門的な知識や技術について学ぶ機会を設けています。また、スタッフ同士で日々の経験や知識を共有しながら、それぞれの学びを深めています。

一人ひとりが継続して学び、知識や技術を高めることは、より質の高い看護を提供することに繋がります。

これからも学びを大切にし、ご利用者様やご家族様に「歩来に任せてよかった」と思ってもらえるような、安心・安全な看護を目指してまいります。



北國新聞に代表の記事が掲載されました

このたび、北國新聞の「地鳴り」コーナーに、代表の記事が掲載されました。日々の生活や仕事の中で感じたこと、地域について考えたことなどを綴った記事です。普段はなかなか知っていただく機会のない代表の想いや考えを、新聞を通して地域の皆様に届けることができました。

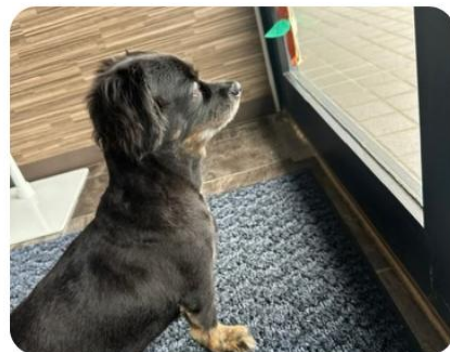
こうした掲載をきっかけに、歩来のことを知っていただいたり、私たちの活動に興味を持っていただけたら嬉しく思います。

これからも地域とのつながりを大切にしながら、歩来の活動や取り組みを発信していきたいと思っております。



歩来社長の出勤時の様子

ホームケアステーション歩来には、代表の愛犬の歩来ちゃんが出勤する日があります。事業所に出勤すると、元気いっぱい事業所内を駆け回り職員一人ひとりに挨拶をします。入口の窓から外を眺めながら、訪問へ向かう看護師を見送ったり、お客様が来られるとお出迎えしたりという過ごし方をしています。職員に元気を届け、お客様を温かくお出迎えしてくれる癒しの存在です。いつもかわいい姿で、みんなを笑顔にしてくれています。



北陸朝日放送の取材を受けました

このたび、ホームケアステーション歩来が北陸朝日放送の取材を受けました。当日は1日かけて、訪問看護の現場や事業所での様子を丁寧に取材・撮影していただきました。

実際の訪問では、代表がご利用者様のもとへ伺い、看護を行っている様子を撮影。

また、事業所では、代表の仕事風景やスタッフとのやり取りなど、普段の歩来の様子も撮影していただきました。

ホームケアステーション歩来の名前の由来となった、代表の愛犬「歩来ちゃん」も取材に参加しました。

今回の取材を通して普段の訪問看護の様子や、歩来が大切にしている想いを多くの方に知っていただく機会となりました。



健康につながる正しい歩き方

健康効果を高める正しい歩き方の4つの基本ポイント

- 姿勢を正す
視線は10～20m先を向き、背筋をまっすぐ伸ばします。
- かかとから着地する
足の裏全体ではなく、かかとから地面に接着させます。着地後は足の外側から小指の付け根、親指の付け根へとスムーズに体重移動させます。
- つま先でしっかり蹴り出す
最後は足の親指（及び足の指全体）で地面をしっかり押し出して前に進む
- 腕を後ろに引く
肘を軽く曲げ、体に対して平行に後ろへ引く意識

医療と生活を
つなぎ、
その人らしい暮らしを
支えます。

ホームケアステーション歩来に

特定看護師が 新たに加わりました

特定行為研修を修了した看護師が、医師との連携のもと、
より専門的な医療的ケアに対応できる体制を整えました。



医療の専門性を
活かしながら、
在宅療養を
支えます！

特定看護師ってなに？

特定看護師は、特定行為研修を修了した看護師です。
医師の作成した「手順書」に基づき、
一定の診療の補助(特定行為)を行うことができます。

ただし、医師の指示をすべて代わりに行うのではなく、
利用者さんの状態を確認し、必要に応じて
医師へ報告・相談しながら実施します。

※手順書とは、医師が作成する
「このような状態のときに、この特定行為を行う」という
具体的な指示のことです。



特定看護師と普通の訪問看護の違い

普通の訪問看護

利用者さんの状態を確認

変化を発見

医師へ報告・相談

医師の指示に基づき処置

医師・ケアマネジャー・MSW・施設等と連携しながら行います。

特定看護師の場合

利用者さんの状態を確認

手順書に基づき特定行為を実施

医師へ報告・共有

その後の経過を継続して観察

こんな時は ご相談ください

- ✓ 退院後の医療的ケアが心配
- ✓ 食事・水分が取れない
- ✓ 胃ろうの管理に不安がある
- ✓ 在宅酸素を使用している
- ✓ この状態でも自宅・施設で生活できるのか迷っている



歩来の特定看護師が対応できる4つの特定行為

1 栄養及び水分管理に係る 薬剤投与関連



こんな方に

- ・ 食事や水分摂取量が少ない
- ・ 脱水を繰り返している
- ・ 経口摂取が十分にできない
- ・ 退院後も水分管理が必要
- ・ 点滴等による水分管理が必要 など

訪問看護でできること

- ・ 食事・水分摂取量、体重、排泄、浮腫
- ・ 皮膚・口腔内、全身状態の観察
- ・ 医師と連携し、必要に応じて
特定行為を実施

「最近あまり食べられていない」
「水分が取れていないけど、
すぐ入院が必要？」など、
まずはご相談ください。

2 瘻孔管理関連



こんな方に

- ・ 胃ろうを造設している
- ・ 胃ろう周囲の皮膚トラブルがある
- ・ 漏れや発赤が気になる
- ・ 長期的に胃ろうを使用している
- ・ ご家族や施設職員だけの管理に
不安がある など

訪問看護でできること

- ・ 瘻孔周囲の状態観察・管理
- ・ ご家族・施設職員への指導
- ・ 異常時は医師へ報告・相談し
必要な対応へ

「胃ろうの周りが赤い…」
「漏れがあるけどどうしたらいい？」
など、状態を確認し
サポートします。

3 呼吸器 (長期呼吸療法に係るもの)関連



こんな方に

- ・ 在宅酸素療法を行っている
- ・ 慢性呼吸器疾患がある
- ・ 呼吸状態の変化を確認する必要
- ・ 退院後も酸素療法を継続する
- ・ 呼吸状態の悪化を早期に把握したいなど

訪問看護でできること

- ・ SpO₂、呼吸数、呼吸音、痰の状態
- ・ 呼吸苦の有無、活動時・安静時の様子
- ・ 酸素療法の管理支援
- ・ 気管カニューレの交換 ※
- ・ 異常時は医師へ連携し対応

「酸素を使っているけど
自宅での管理が心配…」
など、呼吸状態を継続的に確認し
支援します。

4 動脈血液ガス分析関連



こんな方に

- ・ 呼吸状態をより詳しく評価する必要
- ・ 酸素療法を継続している
- ・ 呼吸状態の変化がみられる
- ・ 慢性呼吸器疾患等で評価が必要 など

訪問看護でできること

- ・ 通常のSpO₂等の観察に加え、
医師と連携し、動脈血液ガス分析の
必要性を判断
- ・ 普段の状態との変化を踏まえ報告・相談

「呼吸状態をもっと詳しく
知りたい」など、医師と連携し
適切に対応します。

ケアマネジャー・医療ソーシャルワーカーの皆さまへ

こんなケースは、ぜひご相談ください

- ✓ 退院後の医療的ケアが必要な方
- ✓ 食事・水分が取れなくなってきた方
- ✓ 胃ろうの管理に困っている方
- ✓ 在宅酸素を使用しているが家族だけでは不安な方
- ✓ 「この状態でも自宅・施設で生活できるのか」迷っている方
- ✓ 施設入所後も医療的管理が必要な方

「訪問看護を入れた方が
いいのかな？」
「この医療的ケアは
在宅で対応できるのかな？」
そんな疑問でも
お気軽にご相談ください。



特定看護師がいることで、できること

医師の代わりになるのではなく、
医師や多職種と連携しながら、利用者様の
「在宅での暮らし」を支えるための仕組みです。



医療機関・介護支援専門員・相談支援専門員・施設等と連携し、
利用者様・ご家族が安心して療養生活が続けられるよう
一緒に考えます。

住み慣れた場所で、
その人らしく暮らしたい



ホームケアステーション

歩来
-Aruku-

お気軽に
ご相談ください

医療・介護・福祉の
皆さまと一緒に、
安心の在宅療養を支えます。

救急・急変対応に強い 看護師が在籍しています

歩来では、BLS・ACLSインストラクターの資格を持つ看護師が在籍しています。

専門的な知識と技術を活かし、
もしもの時にも落ち着いて対応できるよう
日々備えています。



BLSとは？ (一次救命処置)

心停止に陥った人に対して、
その場にいる人が行う
基本的な救命処置の知識と技術を
学びます。

主な内容

- ✓ 胸骨圧迫(心臓マッサージ)
- ✓ 人工呼吸
- ✓ AEDの使用方法 など



ACLSとは？ (高度救命処置)

心停止や急性冠症候群、
急性不整脈、脳卒中など
より高度な緊急時の対応を学びます。
医師と連携しながら、チームで
対応するための知識と技術を身につけます。

主な内容

- ✓ 心電図の理解・対応
- ✓ 薬剤の使用
- ✓ 気道管理・呼吸管理
- ✓ チーム医療の連携 など



BLS・ACLSインストラクターとは？

BLS・ACLSインストラクターは、医療従事者等に対して
救命処置の指導を行う資格です。自らの知識と経験を活かし、
チーム全体のスキル向上にも貢献しています。



こんな時も安心です

- ✓ 急な体調変化や急変時の対応
- ✓ 呼吸状態の変化への対応
- ✓ AEDの使用などの救命処置
- ✓ 医師・救急隊との連携
- ✓ ご家族への対応・相談



私たちの想い

大切なご利用者様が
住み慣れたご自宅で
安心して過ごせるよう、
専門的な知識と経験をもって
支援します。

人生の歩みを大切に、
進み来る時間(とき)を
かけがえのないものに

今月のお知らせ

Aruku

介護冷凍食 & アイス取り扱い始めました

このたび、ホームケアステーション歩来～Aruku～では、介護冷凍食・栄養応援アイスの取り扱いを始めました！

「薬局ではペーストタイプしかみつからない・・・」

「配食サービスは量が多くて食べきれない・・・」

「種類が豊富で、おいしく食べられる冷凍食品がなかなか無い・・・」

そんなご利用者様やご家族様から寄せられた声をきっかけに、明祥様にご協力いただき、今回の取り扱いが実現しました。

和洋中・肉・魚などバラエティ豊かなメニューをご用意しております。

普通食



やわらか食



ムース食



※ 写真はイメージとなっております。



栄養応援アイスってなに??

- ・ 1カップでたんぱく質が5gも摂れる！
- ・ 溶けにくいから食事と一緒に提供できる！
- ・ 甘すぎないから飽きずに美味しく食べられる！
- ・ 日本人に不足しがちなビタミンDを1日分配合！



溶けない!? ヒミツのアイスについて



冷蔵庫から出したあと、60分経っても液状にならないため、食事と一緒に提供してもおいしく食べられます！

アイスでもしっかり栄養補給

1カップでエネルギーだけでなく、たんぱく質5g、1日分のビタミンDが摂れる栄養設計。食が細くなった方や栄養補助が必要な方でも、無理なく栄養を摂取できます。

たんぱく質	ビタミンD	エネルギー
5g	1日分	130 kcal



地区祭礼で お立ち寄りいただきました！



9/20に開催された地区祭礼の際に、御神輿、神主様に事業所へお立ち寄りいただき、ご祈祷していただきました。

また、事業所前では獅子舞も披露していただき、迫力ある舞を間近で見ることができました。地域の皆様と一緒に祭礼の雰囲気を感じることができ、スタッフ一同、貴重な時間を過ごすことができました。



新しい仲間が加わりました！



看護師（特定看護資格保有）

船木 浩憲 さん

K病院で12年間、HCU・外科病棟・地域包括ケア病棟と幅広い領域を経験する中で、急性期で命を守るだけでは患者様の「生活の継続」までは支えきれないという限界を感じるようになりました。特に地域包括ケアで退院支援に携わった際に、退院後の生活環境や家族の不安が大きく、入院中の看護だけでは解決できない課題が多いことを痛感しました。また、ACLS/BLSインストラクターとして地域の医療者や住民に急変対応の指導を行うなかで、「地域で暮らす人の安心は地域で支えるべきだ」という思いが強くなりました。特定看護師として、胃瘻交換、気管カニューレ交換、高カロリー輸液の補正など在宅で求められる処置を多数経験してきました。

これらの技術は医療依存度の高いご利用者様の生活を守るうえで大きな安心につながると考えています。急性期で培った観察力、判断力、特定行為の技術、そして地域での教育活動を通じて得た、「地域を支える視点」を在宅という生活の場で最大限生かしたいと思います。よろしくお願いいたします。



看護師

木谷 奈津江 さん

7月から勤務をしております。

利用者様が本人らしく在宅生活が送れるように、支える訪問看護に少しでもお役に立ちたいと日々臨んでいます。

家庭の事情で短時間勤務ですが、配慮いただき、どの方にも相談しやすい、風通しのよい環境です。これからも自己研鑽していきます。

このたび、歩来に新しい仲間が加わりました！それぞれの個性や得意なことを活かしながら、スタッフ同士で学び合い、支える職場を大切にしていきたいと思っています。

日々の関わりの中で生まれる笑顔や、一人ひとりの小さな気づきを大切にしながら、これからもご利用者様やご家族に安心をお届けできるよう努めてまいります。

新しい仲間とともに、さらに温かく頼れる歩来を目指してまいります。

これからもホームケアステーション歩来をよろしくお願いいたします。



株式会社歩来
ホームケアステーション歩来～Aruku～



〒925-0141 石川県羽咋郡志賀町高浜町ヤ13-5
TEL (0767) 33-0123 Fax (0767) 33-0015



<https://nursingcare-aruku.com>



aruku_company_limited

